

Q7 新型コロナウイルスの影響についてお伺いいたします。以下の各項目について、昨年度と比べて「1 かなり減った」から「5 とても増えた」の5段階でお答えください。もともと行っていない場合は「0 もともと行っていない」に○をつけてください。(○はそれぞれ一つ)

	かなり減った	少し減った	変わらない	少し増えた	とても増えた	もともと行っていない
1 教科横断的な学びの時間	1	2	3	4	5	0
2 体験学習や校外学習などの時間	1	2	3	4	5	0
3 外部人材、地域人材の活用	1	2	3	4	5	0
4 児童・生徒主導型の学習や活動	1	2	3	4	5	0
5 探究学習・課題解決型の学習の機会	1	2	3	4	5	0
6 ESDのためのICTの活用	1	2	3	4	5	0
7 ESD以外の教育活動におけるICTの活用	1	2	3	4	5	0
8 SDGsをはじめとする地球規模の課題を子どもたちが身近に捉える機会	1	2	3	4	5	0
9 学校としてESDに取り組む機会	1	2	3	4	5	0

【質問1】 次の1から13に書いてあることについて、あなたはどれくらい知っていますか？ それぞれについて、一番あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

	全く知らない	よく知らない	どちらとも言えない	知っている	よく知っている
1. 地球環境問題にどのようなものがあるのか	1	2	3	4	5
2. 水やエネルギーといった資源(自然から手に入れることができるもの)には限りがあること	1	2	3	4	5
3. 貧しさや差別のために、十分な食べ物がなかったり、病院に行くことができなかったりする人がいること	1	2	3	4	5
4. 環境問題と動物や植物のくらしには、どのような関係があるのか	1	2	3	4	5
5. 自分の住んでいる地域で自然災害が起きたときに自分の身を守る方法	1	2	3	4	5
6. 会社、工場やお店、自治体(町や市など)が行うまちづくりやものづくりは、環境に影響があること	1	2	3	4	5
7. 仕事がなかったり、少ないお金や厳しい条件で働く人も多くいること	1	2	3	4	5
8. 自分の毎日の行動が、外国の人たちの生活や地球環境に関係していること	1	2	3	4	5

(【質問1】の続き)

	全く知らない	よく知らない	どちらとも言えない	知っている	よく知っている
9. 異なる文化を持つ人や国をみとめ合うこと	1	2	3	4	5
10. 選挙に行けたり、自分の意見を自由に言えたりすることができない国の人もいること	1	2	3	4	5
11. 性別によって差別を受けたり、平等な権利を奪られない問題	1	2	3	4	5
12. 世界には学校に行きたいのに行けない子どもたちもいること	1	2	3	4	5
13. SDGs(持続可能な開発のために、世界の国々が2030年までに達成することに同意している17の目標)について	1	2	3	4	5

【質問2】 あなたは、先ほどの【質問1】の1~13にあるような、世界で起こっている問題について、どこで知りましたか？

次の1~6の中から、あてはまるすべての番号に○をつけてください。覚えていない、わからない場合は、「7. 覚えていない・わからない」に○をつけてください。(6を選んだ人は、どこで、またはどのように知ったか、わくの中に記入してください。)

1. 学校の授業や活動で知った
2. テレビ、ラジオ、新聞で知った
3. インターネット/ソーシャルメディア (SNSなど) で知った
4. 友だちや家族から知った
5. 学校の外で行われるイベントなどで知った
6. その他の場所や方法で知った
↳どこで/どのように知りましたか。
7. 覚えていない・わからない

【質問3】あなたは、次の1から14に書いてあることについて、どう思いますか？
それぞれについて、あなたの考えに一番あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	わからない
1. 世界で起こっている問題はわたしの生活にも関係する	1	2	3	4	5	6
2. なるべく資源(自然から手に入れることができるもの)のむだ使いはやめようと思う	1	2	3	4	5	6
3. 貧しさのない平等な世界にしたい	1	2	3	4	5	6
4. わたしは自分の住んでいる地域の人のためになることをしたい	1	2	3	4	5	6
5. わたしと外国の人たちには似ているところがある	1	2	3	4	5	6
6. 外国の人たちのことについてもっと知りたい	1	2	3	4	5	6
7. 未来の世界でも今と同じように生活できたらいいと思う	1	2	3	4	5	6
8. 地球環境をまもるための法律や規則が必要だと思う	1	2	3	4	5	6
9. 少ないお金や厳しい条件で働く人もいることは仕方がないことだと思う	1	2	3	4	5	6
10. 会社、工場やお店、自治体(町や市など)は資源のむだ遣いをしないほうがいいと思う	1	2	3	4	5	6
11. ある一つの問題に対して、いろいろな意見や考え方があると思う	1	2	3	4	5	6
12. 世界中のすべての人が、男女関係なく学校に行ったり働いたりできると思う	1	2	3	4	5	6
13. わたしにはSDGs(持続可能な開発のために、世界の国々が2030年までに達成することに同意している17の目標)の達成を目指して協力する責任があると思う	1	2	3	4	5	6

14. 自分の学校で何か問題があれば、わたしはその問題をみんなと一緒に解決できると思う 1 2 3 4 5 6

【質問4】あなたは、学校で次の1から6に書いてあることについて経験がありますか？
経験があるものについては、どのくらい真剣に取り組みましたか？
それぞれについて、あてはまるもの1つずつに○をつけてください。

	まったく真剣に 取り組まなかった	あまり真剣に 取り組まなかった	どちらともいえない	まあまあ真剣に 取り組んだ	とても真剣に 取り組んだ
1. 日本や世界で起こっている様々な問題の大切さがわかるような授業や総合的な学習の時間、学級活動があった	1	2	3	4	5
2. 日本や世界で起こっている様々な問題について、授業の中で質問したり、自分の意見を言ったりした	1	2	3	4	5
3. 日本や世界で起こっている様々な問題について調べて発表した	1	2	3	4	5
4. 情報がどこから来たのか、どの情報を信じてよいか、情報には間違ったものもあるかもしれないということを知った	1	2	3	4	5
5. 学校で節水や節電、給食の食べ残しを減らすことに取り組んだ	1	2	3	4	5
6. 環境を保護するため、よりよい社会をつくるための活動を計画したり実行したりした	1	2	3	4	5

【質問5】あなたは、次の1から10に書いてあることを、どのくらいしていますか？ それぞれについて、一番あてはまるもの1つずつに○をつけてください。

	一度もない	あまりしない	ときどきする	たいていする	必ず、いつもする
1. プラスチックゴミを出さないように水筒やエコバックを持ち歩いている	1	2	3	4	5
2. ゴミを捨てるときはリサイクルや再利用ができるものを分けている	1	2	3	4	5
3. 水や電気のむだ遣いをしないようにしている	1	2	3	4	5
4. 健康や環境に悪い影響を与えらると思うもの（服、電化製品、食べ物など）は選ばないようにしている	1	2	3	4	5
5. ものを大切に使い続けたり、必要以上に買わないようにしている	1	2	3	4	5
6. 日本や世界で起こっている様々な問題について、キャンペーンやデモに参加している	1	2	3	4	5
7. 国際的な機関やチャリティ団体（ユニセフなど）に寄付や募金をしている	1	2	3	4	5
8. 日本や世界で起こっている様々な問題についてニュース番組を見たり、新聞記事を読んだりしている	1	2	3	4	5
9. 性別や国（人種）、身なりや障がいの有無など、生まれ育ちに関係なく、だれに対しても同じように接している	1	2	3	4	5
10. 相手のことを理解するために、相手の立場になって考えている	1	2	3	4	5

【質問6】今年、新型コロナウイルスの影響によって学校が休校になったり、学習の仕方が変わったりしました。

そのなかで、あなたの学校での学習や、あなたの世界についての見方は、どのように変化しましたか。

次の1から6に書いてあることのうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。1～6に当てはまるものがない場合は、「7. とくに変化したことはない」に○をつけてください。

(6を選んだ人は、どのように変わったかわくの中に記入してください。)

1. 調べ学習や課題をするときに、パソコン、タブレット、スマートフォンなどを使うことが多くなった	2. パソコン、タブレット、スマートフォンなどのオンラインでの調べ学習の時間は楽しいと思っている	3. 休校中の家庭学習やオンライン学習でも、環境や負担、差別や紛争など、日本や世界で起きている問題について学んだ	4. 新型コロナウイルスのニュースをみて、世界はつながっていると感じた
5. 病気や健康に対して今までよりも気をつけるようになった	6. 発表やグループワークの方法が変わった ↓ 具体的な点のどのようになりまししたか。	□	
7. とくに変化したことはない			

第4章

本年度の横浜市ESD推進コンソーシアムの取組
(教育委員会としてのESD推進)

2020年度の横浜市の
SDGs達成の担い手育成（ESD）
推進の発信・交流の場

横浜市 ESD 推進コンソーシアム 交流報告会



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン（Zoom）
で実施します。なお、今年度は児童生徒の交流報告会は公開しません。

2021年1月30日（土）13:00～16:00（当日は12:30から入室できます。）

▶ 講演

- ・SDGs達成の担い手育成（ESD）とロジックモデルを用いたプログラム評価の実際

東洋大学教授 米原 あき 氏

- ・国連大学研究によるESD/GCED調査結果から見えてきたこと

東京大学准教授 北村 友人 氏

▶ 実践報告とグループ協議

- ・横浜市立SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校の実践報告とグループ協議

SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校教職員

▶ 総評

- ・各校の実践報告を受けての総括とこれからの社会に求められること

東京都市大学教授 佐藤 真久 氏

下の二次元コード・URLからアクセスして申し込みをしてください。Zoom ミーティング ID・パスワードをお送りします。

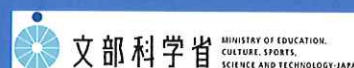
申し込み期日 2021年1月25日（月） 参加人数に上限があるため、期日前に申し込みを終了することもあります。

申し込みURL

<https://www.e-shinsei.city.yokohama.lg.jp/yokohama/uketsuke/dform.do?id=1610414009896>



主催 横浜市教育委員会
お問合せ 小中学校企画課 045-671-3265
E-mail ky-esd@city.yokohama.jp



本事業は文部科学省のSDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業として行われています。

横浜市 ESD 推進コンソーシアム交流報告会


日時：児童・生徒の部 2021年1月26日(火)・28日(木), 2月3日(水)・4日(木)・5日(金)
 教職員の部 2021年1月30日(土) 13時~16時
 会場：オンライン開催(発表、講演者は市庁舎18階共用会議室みなと6・7)

○ はじめに

今年度は、COVID-19 感染拡大防止のため、初めてオンラインで実施した。児童・生徒の部は、小学校は第5校時(5日間)に、中学校(1日)は放課後に3~5校が集まって実施した。参加は任意(環境教育実践推進校含む)とし、事前に撮影した動画での開催も採用した。

I 児童・生徒の部(1月26日~2月5日)

各回、動画発表校を含めて3校に分かれて、「発表、質問・感想交流」を行った。率直な質問や意見のやり取りをする中で、自分たちの活動を見直し、新たな課題を発見したり、これからの活動の方向性を考えたりすることに繋げることができた。

<p>交流報告会の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①めあて ②各校の発表と質問・感想交流 ③振り返り・まとめ 	<p>①めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学校の発表と自分たちの取組を比べて、感じたことや考えたことを表現する。 ・今までの学習活動や今日の交流報告会を通して大切にしたいことを見つける。 	<p>エコバッグとレジ袋二酸化炭素の排出量 (使用回数で考えると...)</p> <p style="text-align: center;">50回 使わないと...</p> 
--	---	--

【各回の参加校と発表テーマ】

日 時	学校名	発表テーマ
1月26日(火) 13時30分~14時20分 港南台第三小・東高 動画発表	相沢小学校①②	6-1 6-2 「あいぎわのまち SDGs 宣言」
	矢向小学校	「い草の魅力を通して、まちの方々を笑顔にしよう」
	幸ヶ谷小学校①	5-3 「地球のみんなにやさしい生活づくり」
	中尾小学校①	5-2 「水産業の未来の資源を守る~自分たちにできること~」
1月26日(火) 16時~16時30分	市ヶ尾中学校	「With コロナ~新たな可能性」
	中川西中学校	「SDGs に対する意識向上プロジェクト」
	中和田中学校	「学校保健委員会 (エコバッグ 作製)」「中庭再生プロジェクト」
1月28日(木) 13時30分~14時20分 東高動画発表	荏田西小学校	「委員会活動の紹介、服のプロジェクトの取組について」
	三保小学校①②	6-3 「『我がまちふるさと三保』から行動しよう」 6-4 「世界の課題に立ち向かえ『我がまちふるさと三保へ』」
2月3日(水) 13時30分~14時20分 東高動画発表	恩田小学校	「竹公房~いやしの空間を創ろう」
	南本宿小学校	「水田活動と SDGs」
	幸ヶ谷小学校②	5-4 「他人事にしない地球温暖化プロジェクト」
	中尾小学校②	4年 「マイクロプラスチックを減らして未来を変えよう」
2月4日(木) 13時30分~14時20分 東高動画発表	三保小学校③	6-2 「伝えよう 残そう 三保の魅力」
	羽沢小学校	「はぎわ知名度爆上げ大作戦！」
	幸ヶ谷小学校③ // ④	5-1 「コロナ不安をなくし、みんなが『しあわせ』になれる世界にしよう」 5-2 「未来につなげる すごしやすいまち」

日時	学校名	発表テーマ
2月5日(金) 13時30分～14時20分 港南台第三小・東高 動画発表	中尾小学校③	5-1「私が伝えたいこと～資料が教えてくれるSDGs～」
	みなとみらい本町小	「自然大好き3年生」
	永田台小学校	「この木なんの木気になる木～4の1樹木で輪和笑～」
	三保小学校④	6-1「考えよう 世界の課題 見つけよう 三保の魅力」
	大門小学校①②	3-1「みりよく発信！瀬谷観光パンフレット」 4-3「バイオプロジェクト」
	神奈川小学校	総合「浦島太郎について調べよう」

II 教職員の部（1月30日）

77人から参加申込みがあった。講演と実践報告、グループ協議、総括の構成で実施した。

本日の流れ（前半）	
13:05	米原先生 高原先生 ご講演 「SDGs達成の担い手育成（ESD）と ロジックモデルを用いたプログラム評価の実際」
13:40	北村先生 ご講演 「国連大学研究によるESD/GCED調査結果から 見えてきたこと」
14:15	休憩 5分

本日の流れ（後半）	
14:20	実践報告「ESDによって引き出すことのできた価値」 みなとみらい本町小 赤岡先生
14:30	三保小 横田先生
14:40	市ヶ尾中 安藤先生
15:50	東高校 平澤先生
15:00	グループ協議
15:25	佐藤先生 ご講演・総括 「各校の実践報告を受けての総括と これからの社会に求められること」
15:55	クロージング

1 講演

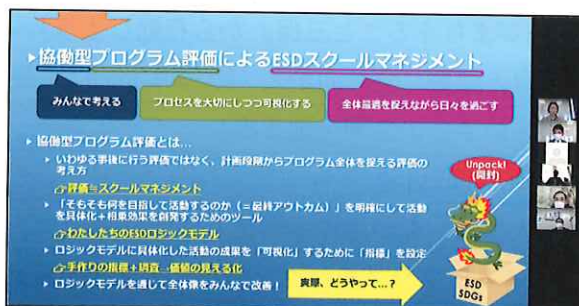
(1) 「SDGs 達成の担い手育成（ESD）とロジックモデルを用いたプログラム評価の実際」

東洋大学教授 米原 あき / みなとみらい本町小学校 主幹教諭 高原 洋介

この講演では、ESDの観点スクールマネジメントに導入する意義を踏まえ、それを実践するみなとみらい本町小学校の取組が報告された。

みなとみらい本町小学校は、ESDで目指す資質・能力を取り入れた「学校教育目標」として、【「みな」と「みらい」を創る子】を設定している。そして、協働型プログラム評価により、計画段階から全体を捉え、「学校教育目標」の実現を目指してあらゆる活動を具体化している。さらに、ESDロジックモデルに具体化した活動の指標を設定して、成果の可視化に取り組んでいる。

日々の教育活動は、「学校教育目標」と紐づいた「中間アウトカム」の実現を目指して取り組んでおり、ESDの概念を可視化したことで職員間の共通理解が進み、地域や保護者にロジックモデルを周知したことで協力体制も整い、活動にESDの視点を取り入れることが日常化してきている。今年度の取組においても、アンケートの分析の結果、探求的な学びの定着やたてわり活動のよさに気づきがみられている。



(2) 国連大学研究による ESD/GCED 調査結果から見えてきたこと」

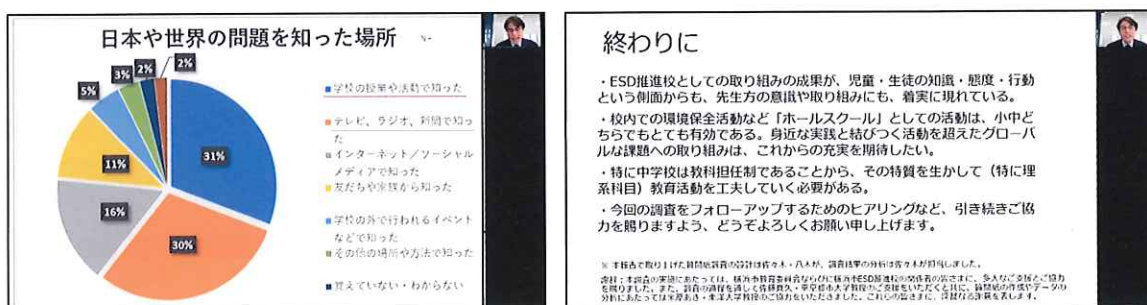
東京大学大学院准教授 北村 友人

この講演では、今年度推進校の児童生徒、教職員を対象に実施した調査の分析状況が報告された。

この調査は、E S Dの取組の成果と今後の課題を明らかにするために実施しており、横浜市の児童生徒およそ 2300 人、教員およそ 370 人の回答をもとに現在分析をしている。主な調査項目は、環境・社会・経済の諸問題に関する知識・態度・行動に関する意識や実態などである。

詳細の分析はこれからであるが、「日本や世界の問題を知った場所」の設問で、学校の授業や活動で知った割合が高いなど、E S D推進校の取組の成果が、児童・生徒の知識・態度・行動という側面や教員の意識や取組に現れている。また、E S Dにホールスクールでの取組は、小中学校においてとても有効であることが分かってきている。

一方で、環境・経済・社会の相互関連性や自分自身の行動とそれらの関連性への理解が低いことや、具体的な課題への態度に結びついていない可能性があること、グローバルな課題についての関心・理解が十分ではないといったことが課題として考えられ、今後の充実が期待される。



2 実践報告

(1) みなとみらい本町小学校教諭 赤岡 鉄矢

4年生の活動「木のストロー プロジェクト」において、川の水の調査やごみの分析といった、プラスチック製品に関する調査をきっかけに、協働による木のストローの広報活動に取り組んだ。協働することで社会の見方が変わり、SDG sのターゲットをより身近に感じて、大きな課題を自分のこととして考えられるようになった。アンケートの設問「家や地域の人に、自分たちの活動へ協力（参加）してもらっていますか」では、事前事後で肯定的な回答の割合が大きくなっており、児童が、多様な他者とコミュニケーションをはかり、活動の価値に気付くことができている。



(2) 三保小学校教諭 横田 和之

本校では、E S Dにおいて育成を目指す「構成概念」と「能力・態度」を学年別に重点化し、カリキュラム・デザインに取り組んでいる。例えば、4年生は「相互性」と「多面的、総合的に考える力」としている。その結果、1年間という期間で児童の変容を捉えることができた。「安心」と「安全」の2つの視点をもって町の調査を行い、課題を設定して、解決方法を考えた。解決の取組では、思考ツールを積極的に取り入れて思考を可視化し、つながりや関係性に目を向けられるようにした。活動を通して、三保のまちを大切にしたい気持ちへの気付きを得て、森林伐採といった問題を自分ごととして捉え、他者に訴えようと行動しようとする態度が高まった。

(2) 実践事例

学年	構成概念	能力・態度
1年生	I 多様性	⑦《参加》
2年生	III 有限性	④《伝達》
3年生	V 連携性	⑤《協力》 ⑥《関連》
4年生	II 相互性	③《多面》
5年生	VI 責任性	①《批判》
6年生	IV 公平性	②《未来》

研究内容
E S Dにおいて育成を目指す「構成概念」「能力・態度」を学年別に重点化

重点化を図ることにより、児童の変容をより捉えやすくなることをわらう。

実践報告（横浜市立三保小学校）

(3) 市ヶ尾中学校教諭 安藤 大奈

「市中から世界を変えよう」を合言葉に活動に取り組み、委員会の活動にSDG s 17の目標を位

置づけている。例えば、海洋プラスチック問題についての取組から、公募によるエコバッグ制作に取り組み、同じような活動をしている小学生とのオンライン交流をして活動の充実を図ったり、自分たちにできることを考えるために、外部講師による「せっけん教室」を実施したりしている。

教科の学習においても、SDGs について理解を深める活動を積極的に取り入れている。こうした活動を通して、自分たちの考えや行動を積極的に発信し、広げていこうとする生徒の意識や行動力の高まりを価値として引き出すことができた。

(4) 東高等学校教諭 平澤 香織

イーストタイム（総合的な探究の時間）において、世界各国から来日した留学生とオールイングリッシュで2日間活動するGCC（Glocal Citizenship Camp）を実施した。実施前は、地球規模の課題に対して高校生の自分にはできないのではないかと考えたり、国によって課題が違うことを理由に話し合うことに消極的だったりする傾向が見られた。実施後は、「世界の抱える課題は他人事ではなく、自分たち高校生にもできることがある」と考えたり、「SDGs を目指して自分ができるところから始めたい」と語ったりするなど大きな変化がみられた。またアンケート調査から、SDGs や世界の諸問題に対する興味や関心のある生徒の割合が大きく増加し、他者と協働してそれらを解決に導くことやコミュニケーション手段としての英語（語学）の重要性を強く認識する契機となったことが読み取れた。生徒たちはイーストタイムを軸として、グローバルな視野を持ちつつまずはローカルに行動（action）し、自分自身を振り返る（reflection）ことを通して、再び世界の課題に向き合っている。これらが東高校のESDの生み出した価値と考えている。

「改めて引き出すことのできた価値」

『自分たちの考えや行動を積極的に発信し、広げていこう』
とする生徒の意識や行動力の高まり。」

「高次可能性の実現と学びの広がり」に向けた
「市庁オリジナルマイバッグの取組」

○市庁オリジナルマイバッグを地域に広げる
3年前からの取組「海洋プラスチック問題」についての学習
生徒会本部役員を中心に活動⇒全校生徒へ発信
公募による生徒デザインオリジナルマイバッグの完成

○マイバッグを地域へ広げる
自治会、町内会での発信
区役所のイベントで区民に販売

☆☆After☆☆Glocal Citizenship Camp

・世界の課題は他人事だと思っていたが、留学生から直接話を聞いて、助けられたらと考えるようになりた。地球規模の課題に対してまだ高校生だから何も役に立たないと思っていたけど、小さなことでも世界とつながっていて、少しでも役に立てることを知った。

・SDGs を意識している国が多いことに驚いた。2030年の目標達成にはまだまだ課題が多いから、自分ができることから始めたい。

・英語がうまく話せなくても、伝えようという気持ちが大切だと実感した。



3 グループ協議

推進校教諭に事前にファシリテーターを依頼し、4人程度で実施した。限られた時間であったが、感じたことを表現したり、意見交換をしたり、情報共有をしたりすることができた。

グループ協議の流れ

- ①自己紹介とこれまでの交流報告会の感想の交流
- ②SDGs 達成の担い手育成につながる取組紹介
- ③取り組んできたことで引き出すことのできた価値や課題

4 講演・総括「各校の実践報告を受けての総括とこれからの社会に求められること」

東京都市大学教授 佐藤 真久 氏

ESDに関する世界の最新の状況やその考え方を踏まえて、本会の総括を行った。

今まさに、正解のない問いと共に生きる時代が到来している。物事の考え方が変わり「学び」の作戦変更が求められている。コロナ禍だからこそこのESDという視点において、変容への在り方の認識は、何をすべきなのかという「Do」からどうあるべきなのかという「Be」に向き合うことが求められている。全体最適性の視点では、ホールスクール、ホールコミュニティアプローチの視点が重要である。

ESDに内在している意味を考えることが大切である。組織や教職員、子どもの変容が連動しており、それらが地域の変容そして日本・地球社会の変容に連動、連関している。

これからの10年、様々な事象について「正しきの衝突」が起きてくる。敢えて衝突させることで、価値規範やこれから求められる「ものの捉え方」を促すことにもつながるであろう。

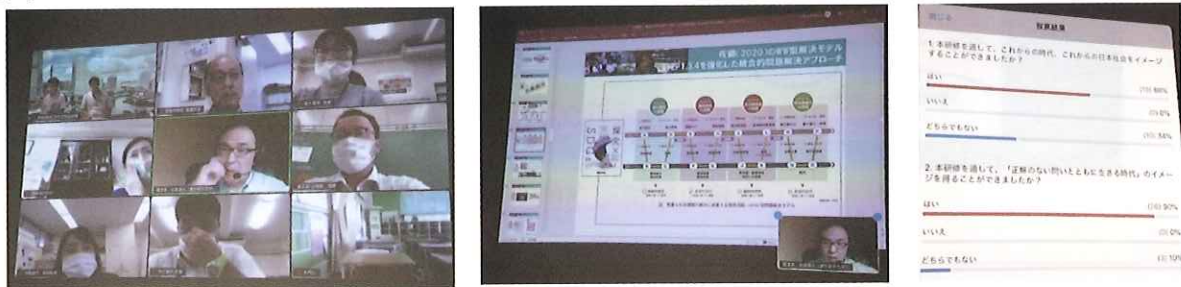
本日の交流報告会を踏まえて「総括 佐藤(2021)」

【総括】
正解のない問いと共に生きる時代が到来している。物事の考え方が変わり「学び」の作戦変更が求められている。コロナ禍だからこそこのESDという視点において、変容への在り方の認識は、何をすべきなのかという「Do」からどうあるべきなのかという「Be」に向き合うことが求められている。全体最適性の視点では、ホールスクール、ホールコミュニティアプローチの視点が重要である。

【SDGs/ESDの実践に対する】
◆全体的な視点、個人と社会の実践の連携
◆組織の取組、個人と社会の実践の連携
◆組織の取組、個人と社会の実践の連携
◆組織の取組、個人と社会の実践の連携

第1回 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校研修会（オンライン）

- 1 日時 2020年8月28日（金）15:30～16:45
- 2 参加方法 Zoom
- 3 参加校
神奈川小 幸ヶ谷小 羽沢小・みなとみらい本町小 永田台小 南本宿小 相沢小 大門小
三保小 恩田小 荏田西小
本牧中 中和田中 小田中 西柴中 西本郷中 市ヶ尾中 中川西中
- 4 内容
 - (1)事務局挨拶
 - (2)講演 「VUCA社会に求められる探究×SDGs」
～『国連・ESDの10年』の経験を活かし、SDGsの本質に向き合う～
講師 東京都市大学 教授 佐藤 真久 氏
 - (3)講演を基にしたグループ協議
 - (4)まとめ



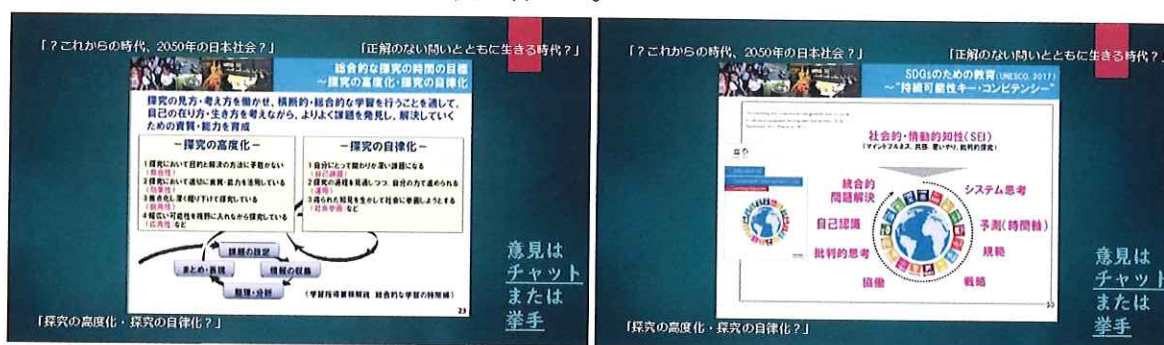
<第1回研修会 講演 アンケート>

- ・国際バカロレアのカリキュラムが参考になると感じました。
- ・失敗や試行錯誤を私たちも子どもたちも恐れない。
- ・今までやってきた活動を改めてSDGsの視点で捉え直す、整理する。
- ・地域の課題からグローバルな視点へつなげていく仕掛けを考える。
- ・子供たちが視野を広げる(広角性)ときに、SDGsがヒントになる。
- ・SDGsは目標の一つになると感じた。
- ・それぞれの問題のつながり、数カ年のつながりを意識する。
- ・社会的情動的知性の世界の動向をもっと知りたい。資質能力ベースでESDがとどまってしまっはつまらない。
- ・探究の自立化のために、待つ。こどもたちの気づき、学びを「つなげる」工夫を考えたいです。
- ・何か活動する際に、自分ごととして、自己課題をもって取り組んでいけるように、思考する時間をもたせる。
- ・まずは自分自身の変容が必要。大人の方が変わらない。
- ・SDGsをつなげる。失敗、壁をもたせる
- ・グローバルな問題を如何に個人の日々の行動の変容につなげていくか。
- ・しかけて まって ほめる の循環が大切なのは。マルチプル・インテリジェンスの考え方も参考になるかもしれません。

<第1回研修会振り返り（チャット）>

第1回 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校情報交換会（オンライン）

- 1 日時 2020年9月16日（水）15:30～16:45
- 2 参加方法 Zoom
- 3 参加校
幸ヶ谷小 羽沢小 みなとみらい本町小 永田台小 南本宿小 三保小 恩田小
西本郷中 市ヶ尾中 東高校
- 4 内容
8月28日（金）に行った第1回研修会（オンライン）の内容をチャットの記録を基に振り返りながら、座談会形式で参加者の意見交流を行った。



<第1回情報交換会資料（抜粋）>

- ・自分の学校の課題が見つかりました
- ・各学校のSDGsの取組のアイデアを知りたかったです
- ・高校生にとっても素直な気持ちややってみようという好奇心が大切です
- ・中学校では、世界の課題を子どもたちが、自分ごととして捉えて、自らの行動を変えていくことが、大切だと実感しました
- ・対話をすることで、自分の学校で大事にしていることが見えました。ありがとうございました。
- ・ESDについて各校がどのように捉えているか、勉強になりました。変容という言葉が多くあったと思います。
- ・自分にもできることがあるという自信をつけてほしいと考えています。
- ・中学校や高校の目指す子どもの姿を知ることができました。小学校として、そこにつなげるために豊かな経験を積ませることが大切だと感じました。
- ・テレビドラマなどにもSDGsが出てくるようになって、子どもたちにとっても随分身近になってきていると感じます。他校の実践を、色々知りたいです。
- ・小、中、高と学びをつなぐことが大事だと改めて思いました。
- ・また、教員の皆さんにはESDは特別なことではなく先生方の日々の教育活動そのものという点を発信していきたいと考えています。
- ・これからも小中学校との連続性を大切にしていきたいと考えています。
- ・お互いの少し先の姿を見ることができてすてきですね。
- ・小中学校と連携できたらとおもいます。

<第1回情報交換会振り返り（チャット）>

令和2年度 第2回 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校研修会（オンライン）

1 日時 2020年9月30日（水）15：30～16：45

2 参加方法 Zoom

3 参加校

神奈川小 幸ヶ谷小 羽沢小 永田台小 相沢小 大門小 港南台第三小 三保小 恩田小
本牧中 小田中 市ヶ尾中 東高校

4 内容

(1)趣旨説明

(2)ロイロノート・スクールとZoomを活用したポスターセッション体験

講師 株式会社LoiLo 上原 浩平 氏

(3)まとめ



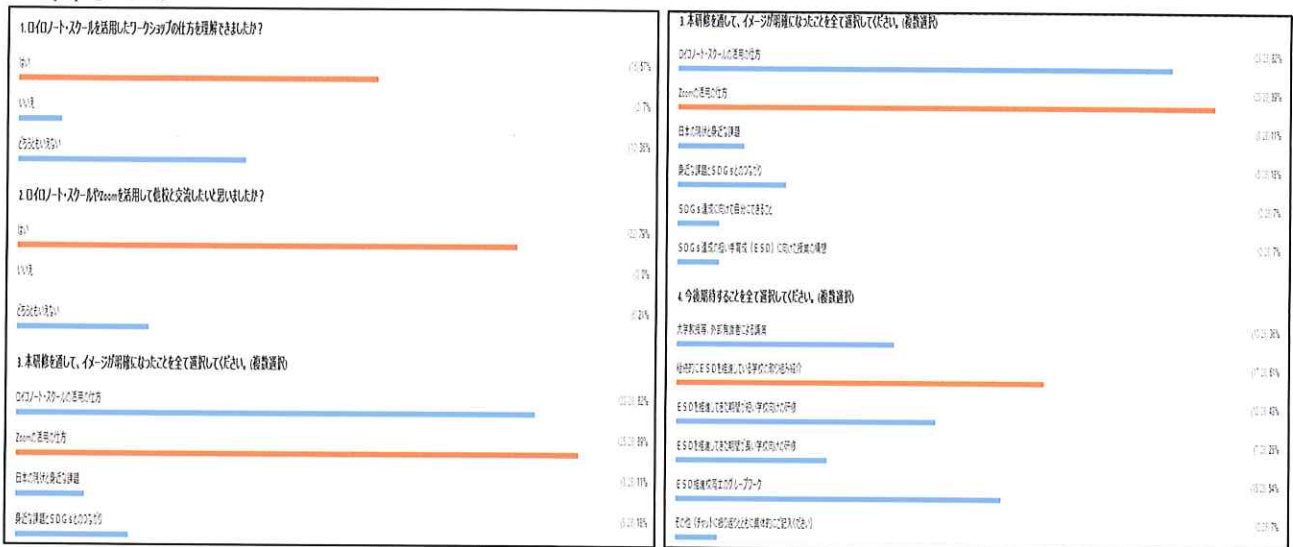
<第2回研修会アンケート結果>

- ・ロイロについて学びました。ありがとうございました。グループご一緒した小中の先生方ありがとうございました。引き続き宜しくお願いします。
- ・大変勉強になりました。次回もよろしくお願いします。
- ・児童・生徒同士の交流が大事
- ・本日はありがとうございました。ロイロノートの使用方法も含めて、参考になりました。
- ・初めてロイロを使いました。もう少し自分自身の学びが必要だと感じました！
- ・ロイロノート使ってみます。やってみないと分かりませんね。
- ・とてもよい経験、学びになりました。ありがとうございました。
- ・相沢小は、環境ジャーナリストの竹田さんと、オンラインでやりとりしました。
- ・ロイロノートの使い方をこれからも学んでいく必要があると感じました。
- ・将来的には外国の生徒と本校の生徒でオンラインミーティングをさせたい
- ・大変勉強になりました。活用するために、自分自身の勉強も必要だとも思いました。
- ・ロイロの使い方もっと勉強したいと思います。
- ・ありがとうございました。ロイロについて勉強したいです。他校の取組も勉強になりました。

<第2回研修会振り返り（チャット）>

第3回 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校研修会（オンライン）

- 1 日時 2020年10月28日（水）15：30～16：45
- 2 参加方法 Zoom
- 3 参加校
神奈川小 幸ヶ谷小 永田台小 南本宿小 相沢小 大門小 三保小 恩田小 荏田南小
本牧中 東高校
- 4 内容
 - (1)趣旨説明
 - (2)ロイロノート・スクールとZoomを活用したワークショップ体験
 - (3)まとめ



<第3回研修会アンケート結果>

- ・話し合いのテーマが興味深かったので、ロイロをスムーズに使えたら、もっと有意義だったと思いました。
- ・異校種の交流は、楽しい。
- ・初めて使用しましたが、使い方がよく分かりました。子どもたちの方が操作や使い方をすぐに習得するのではないかと思います。授業で活用できるように勉強します。
- ・より効果的な使用方法が分かり、よかったです。
- ・ロイロノートの使い方がまだまだ分かっておらず、研修本来の趣旨であるESD推進校のみなさんとの情報共有や議論ができませんでした。勉強します。
- ・まずは慣れていくことが大切だと思いました。ホスト側の準備（グループ分けなどが）大変そうだと思います。
- ・機械の操作に四苦八苦しましたが、とにかく触ってみるということが大切だと感じました。
- ・子どもが使えるようになるには、かなり時間が掛かると感じました。今日は、みなさんと交流できてよかったです。ありがとうございました。
- ・校種を超えた交流を楽しみに実践を積み重ねていきたいです。ありがとうございました
- ・全員が使いこなせるまでは、かなりの時間を要すると思いましたが、授業の中で活用できたら便利だなと思います。テーマについては、もっと話したかったです。ありがとうございました。

<第3回研修会振り返り（チャット）>

第4回 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校研修会（ハイブリッド）

- 1 日時 2020年11月19日（木）15:30～16:45 （受付：15:15～）
- 2 場所 ニュースパーク（日本新聞博物館） 2階イベントルーム
横浜市中区日本大通11
- 3 参加方法 会場へ集合または、Zoom
- 4 参加校（下線はZoomによる参加）
神奈川小 幸ヶ谷小 羽沢小 日枝小 中尾小 南本宿小 相沢小 大門小 港南台第三小
三保小 恩田小 荏田西小 本牧南小
中和田中 西柴中 西本郷中 市ヶ尾中 中川西中 東高校
- 5 内容
 - (1) SDGs達成の担い手育成（ESD）の推進について事務局説明
 - (2) SDGs達成の担い手育成（ESD）推進校担当者の情報交流
 - (3) 事務連絡



＜第4回研修会（ハイブリッド） 事務局説明 情報交流＞

SDGs達成の担い手とはどんな児童生徒ですか？	SDGs達成の担い手育成に向けた授業とは？
自分言葉で語れる子で、 新しい状況に置かれたときに、 なるべし前に進もうとする子達。 自分受容意識し、成長を 喜べる児童。	コロナ状況下での授業は、 十分考慮した上で、たいていの 他校とつながる授業 生活総合以外では、SDGsの 視点で教材研究し、単元ごとの (国語は付録) SDGsにそった 教材作成
今日の情報交換会で考えたことをお書きください。 ・最近、Zoom+ハイブリッドで、とても悲しい思いを(操作はず)。 今日、いっしょに他校の先生と、リアルに語れる喜びを味わう ことができました。ありがとうございました!!	

SDGs達成の担い手とはどんな児童生徒ですか？	SDGs達成の担い手育成に向けた授業とは？
何ににも 自ら考え、発信し、 話し合い、協力しあう。 行動にうつせる児童。	児童主体性で大抵は、1. 7.2.17-9-17.17の立ち位置で 手探り授業(とくに17 (6)7.17) (技術)7-17.17(7.17)
今日の情報交換会で考えたことをお書きください。 ・話しあえていろいろと気づかされた。次への発展につなげてい ける。とても有意義な時間だと思います。	

- ・意見交流した学校と似た取組が多くて、色々参考になりました。
- ・他校の取組を聞き、新規校としてこれからやるべき方向が少し見えてきました。個々の取組を全校のものにしていくにはどうしたらいいかということが、本校の課題です。
- ・他校でやっている取組などを知ることができ、とても参考になりました。
- ・他校の先生と交流ができ、大変有意義な時間でした。本校の実践と重なることも多く、これまでやってきたことの意義が深まり、自信につながりました。

＜第4回研修会振り返り（振り返りカード チャット）＞

本年度のESD推進校

横浜市立永田台小学校
横浜市立幸ヶ谷小学校
横浜市立市ヶ尾中学校
横浜市立東高等学校
横浜市立三保小学校
横浜市立羽沢小学校
横浜市立日枝小学校
横浜市立恩田小学校
横浜市立荏田西小学校
横浜市立港南台第三小学校
横浜市立南本宿小学校
横浜市立みなとみらい本町小学校
横浜市立大門小学校
横浜市立中和田中学校
横浜市立西本郷中学校
横浜市立西柴中学校
横浜市立神奈川小学校
横浜市立白幡小学校
横浜市立中尾小学校
横浜市立相沢小学校
横浜市立本牧中学校
横浜市立小田中学校
横浜市立中川西中学校

(2020年度指定23校)

本報告書の執筆・作成協力（第1章以外）

東京都市大学大学院 環境情報学研究科 (横浜市ESD推進コンソーシアムコーディネーター)	教授 佐藤 真久
東洋大学社会学部社会学科 大学院社会学研究科 (横浜市ESD推進コンソーシアム委員)	教授 米原 あき
東京大学大学院教育学研究科	准教授 北村 友人
東京大学大学院教育学研究科	特任助教 佐々木 織恵
東京大学大学院教育学研究科	特任研究員 八木 恵理子

編修・発行 横浜市教育委員会事務局学校教育企画部小中学校企画課
横浜市ESD推進コンソーシアム

この冊子はFSC認証紙を使用しています。

